



展示 交流員

「展示交流員」と聞いてどのような仕事をするのか想像出来ますか？展覧会は「学芸員」によって企画・展示が行われますが、展覧会が開幕してからは私たちの出番です。展示室内で沖縄県民の財産である収蔵品や資料、他館からの借用作品を保護する役割を担っています。

新しい展覧会が始まる前には学芸員のレクチャーを受け、作品についての理解を深め、作品保護や安全管理上の注意点を学びます。そして作品の保護やお客様が心地よく快適に展覧会で学んだり、楽しんで頂けるよう日々心がけながら業務に従事しています。

展示室の片角に座っているだけでも展示交流員の仕事について少しでもわかって頂ければ嬉しいです。



「沖縄県立博物館・美術館」に来館されるお客様とそこで働く人たち、また展示物や保管された貴重な品々を守るスタッフです。駐車場に車を安全に誘導する仕事や、事故・事件がないように夜間も施設の屋内外を巡回しています。警備班スタッフは24時間体制で「沖縄県立博物館・美術館」を見守っています。

当館を支える スタッフの お仕事紹介



施設 管理

「沖縄県立博物館・美術館」のなかにある、たくさんの機械を動かし、整備するスタッフです。そのたくさんの機械の中でも一番大きなものが、建物内の温度と湿度を一定に保つ「空調機器」という機械です。温度と湿度が高いと、大事な展示物や保管物の状態が悪くなってしまうため、とても大切な機械なのです。この機械は24時間ずっと動いているため、施設管理スタッフは24時間交代でずっと機械を見守っています。



美装

主に清掃を担当するのが「美装スタッフ」です。土やホコリが館内に持ち込まれると、そこからカビや虫が発生する恐れがあります。それらは展示物などに悪影響を与えるため、土やホコリはすぐに取り除く必要があります。「美装スタッフ」は毎日の清掃を徹底して行い、博物館・美術館の衛生管理に努めています。施設をきれいに保つだけではなく、文化財の保護にも大きく貢献しているのです。

「沖縄県立博物館・美術館」は、その名のとおり博物館と美術館が一つの屋根の下にある、ちょっと珍しい施設です。そのおもな役割はいろいろな物を集めてきて、修復しながらそれを展示して、みんなに見て学んでもらうことを応援します。

また、集めてきたいろいろな物には、たいへん貴重な物があります。それをいつまでも良い状態で保管することも博物館・美術館のたいせつな使命です。

こうした仕事は、専門的な知識をもつ「学芸員」が中心となって行いますが、ここでは、博物館・美術館の役割を支えるスタッフたちについて紹介します。